

テクノエイド (上級)研修会

優秀賞

“次の動作に繋がる立ち上がり方” に着目した介助

富士見高原医療福祉センター

老人保健施設すずたけ 入所2階

橘田 真美

施設概要

- 平成15年4月開設
- 入所定員80名
- 4フロアーに分かれており、1フロアー20名
- 従来型多床室（うち1フロアーに個室が2室）
- 構内に診療所、施設内に訪問看護ステーション、
居宅介護支援事業所を併設

事例概要と課題

対象者：女性 身長約145cm 体重約44kg

両膝痛と変形、可動域制限あり

右肩屈曲・可動域制限・右手指伸展制限あり

- 乗降時足の出づらさがあり、徐々に臀部が落ちてきてしまう
- 乗降先へ十分体が向かないまま座ろうとされるため、浅座りやずり落ちのリスクあり
- 臀部を持ち上げる介助になってしまっていることあり

課題に対する対策

対策(a): 安全かつ確実に移乗先へ座ることができるよう、スライディングボードを活用してみる
→ご利用者の筋力増加により以前よりも足の踏み替えができるようになり、ボードを使用する必要がなくなった 介助者が臀部を持ち上げる介助を行うこともなくなった



移乗先へ十分体を向けて座るため、次の対策を検討

対策(b): ①移乗先に向かって足が出しやすいよう、立ち上がる際の足の色位置を変更してみる(立った後に足を踏み出す際に足や体が移乗先に向きやすくなるよう、両足を肩幅に広げるのではなく、移乗先側の足をやや前に出すような位置へ)

②ご利用者が立ち上がりやすい同様の位置で毎回移乗ができるよう、床にマーキングをしてみる(車イスのタイヤの接地面、ベッドへの移乗と車イスへの移乗の際のそれぞれの足の位置へ、ビニールテープを貼る)

対策実施後の結果

- 立ち上がる際の足の位置を変更したことで、「立ち上がりやすくなった」とご利用者からも効果的な声が聞かれた
- 足が出しやすくなったことで移乗先へ体も向きやすくなり、移乗がスムーズに行えるようになった
- マーキングをすることで、職員間で統一ケアを行うことができ、介助方法が定着した
- 次の動作に目を向けて介助方法を工夫することは、ご利用者の残存能力を有効に活かすことに繋がるのだと感じた